

釧路市立中央小学校 フィールド学習（1回目訪問） 実施内容

《概要》

[日程] 2019年7月11日（木）

[参加者] 5年生児童27名

[講師・案内] 環境省 矢部自然保護官

山本・安田（公益財団法人 北海道環境財団）

[フィールド学習の目的]

・体験活動を通して、湿原に関わりのある様々な環境、事象について関心と理解を深める。

[実施プログラムの概要]

9:25 温根内ビジターセンター駐車場到着・オリエンテーション

9:45 温根内木道でのフィールド学習

11:40 フィールド学習終了

《実施内容（記録）》

■オリエンテーション（9:25）

○挨拶（環境省 矢部自然保護官）

皆さんが今いる場所は日本で一番広い湿原の釧路湿原の一部分にいる。普段、環境省のレンジャーとして、その湿原を守る仕事をしている。今日は、釧路湿原がどんなところか少しでも知ってもらいたいと思う。わからないところはスタッフに聞いてもらいたい。（スタッフ紹介）



○スケジュールの確認（北海道環境財団 山本）

今日は2グループに分かれて散策し、お昼前にこの場所に戻って来て学校に戻る。いろいろなものを発見してもらいたい。

■2グループに分かれて、温根内木道でのフィールド学習（9:45）

※以降は1つのグループの活動を記録

（案内：北海道環境財団 山本）

○ビジターセンターに向かう道（目立たない花）

道の横に生えている草の上の方に何かついているのが、わかるだろうか。これは実はこの草のお花で、皆がよく目にするお花以外のような



が、これもお花。今日はきれいな赤やピンクのお花ではないが、いろいろな花が咲いていて湿原はお花畑なので、発見してもらいたい。

○ビジターセンターに向かう遊歩道

(アカゲラの掘りかけの巣穴)

木に穴が空いているのが見えるだろうか。あれはキツツキのアカゲラという鳥が空けた穴で、きれいな丸なので、巣をつくらうとした穴。



○木道でヨシとスゲの違いを観察

先が尖っている草がめの前にいっぱい生えているが、2つの種類があることがわかるだろうか。1つは枝分かたれていて平べったい。1つは途中で枝分かたれはしておらず、触ってみると三角の茎なのでコリコリしている。この2つの草が今日は多く見られるので、まずは、この2つの違いを覚えてもらいたい。



○ミツガシワがどんどころに生えているか観察

先ほどの先が尖っている草と違って、葉の形が違う植物が生えているがわかるだろうか。どんな形の葉っぱだろうか。(ハート型と子ども達の声)。この植物は先ほどまでは生えていなかったが、どんどころに生えているのか、地面の様子をボッコで確認して教えてもらいたい。(水があると子ども達の声)。この植物は水が大好きで、水があるところに生えている。この植物に各自で名前を付けてもらいたい。その名前の植物がいる場所は、下に本当に水があるのか、これから出てきたら確認してもらいたい。

○大きなフキの葉が生えている山際

ここには、これまでなかった大きな葉の植物が生えている。この植物がいるところは、どんどころだろうか。下に水はあるだろうか。(水はない〜と子ども達の声)。水はないところで、山の近くに来たら出てきたので、先が尖った草よりも山に近いところが好きな植物かもしれない。森の奥の方に行くと、またなくなっているので、山に近いところで森の端に生えているよう

だ。植物は生きていくために水の他に必要なものは何があるだろうか。（太陽、光と子ども達の声）。その通りで、太陽の光が必要。森の奥には生えていないということは、光が届く明るい場所で山の近くに生えているのかもしれない。これかからも出てきたら、どんな場所にあるのか、観察してもらいたい。

○一面のヨシが見える場所

これまででは、森の木が生えていたが、目の前には木は生えておらず、最初に見た先が尖った平べったい草が一面に生えている。どうして木が生えていないのだろうか。地面を見ると、水が溜まっている場所がちらほらある。一方で、木が生えている山の方を見ると、地面に水はほとんど見えない。水がないと植物は生きていけないけども、多すぎると木も生きていけず、水に強い植物が生えている。つまり、目の前に生えている草は、木よりも水に強い、水があるところが好きな植物ということ。実は一面お花畑ということがわかるだろうか。最初に見た、目立たない花がいっぱい咲いている。



○ガマが群生している場所

これまで出てこなかった葉っぱが出てきた。幅がとても広くて、触るとわかるが、葉がとても厚い。これまでと同じように、地面の下をぼっこで確認してもらいたい。（水があると子ども達の声）この葉が広い植物も、水があるところが好きなものかもしれない。これからもいっぱい出てくるので、その場所に水があるのか皆で確認してもらいたい。



○哺乳類のフンを発見

何のフンかわからないが、病気などになってはいけないので、直接手で触れたり、近寄りすぎたりしないで観察してもらいたい。（虫がいっぱいと子ども達の声）これは、フンに寄ってきた虫ではなく、よく見ると、虫の破片がフンの中に混ざっている。ということは、このフンをした生き物は、虫を食べたということ。虫を食べたこの生き物は何か学校に帰ってから調べてもらいたい。鳥ではなく、哺乳類だと思われる。



○湿原の中に生える小さな木

この辺りには、低い木がちらほらと生えている。よく見ると葉が出ていない枯れている木も多く見え、高い木はない。水が多いと木は生きていけないとお話したが、ここに木が生えているということは、これまでの場所よりも水が少ないということかもしれない。一方で木の高さも低く、枯れている木も多いということは、木が生きていくにはギリギリの場所ということだろう。何が大変かと言うと、先ほどお話した光は多くありそうで、何とか生きていける水の量なのだろうが、実はもう一つ木が生きていくために必要なものがある。私たちがいうご飯なのだが、実は葉っぱでご飯を作る他にも、根からご飯を吸い上げないと木は生きていけない。この根から吸い上げるご飯がギリギリということかもしれない。



何か生きていける水の量なのだろうが、実はもう一つ木が生きていくために必要なものがある。私たちがいうご飯なのだが、実は葉っぱでご飯を作る他にも、根からご飯を吸い上げないと木は生きていけない。この根から吸い上げるご飯がギリギリということかもしれない。

○タヌキモが多く見られる水たまり

水たまりの中に水草があるが、ぼっこですくって観察してもらいたい。これは食虫植物といって、虫を捕まえて栄養にして生きている。水草についている小さな袋が虫を捕まえる袋で、透明なものはまだ捕まえていない袋。黒くなったものは、実は中に虫を捕まえた袋。この食虫植物は、これまでお話した植物にとってのご飯がとても少ない場所において、虫を食べて栄養にしている。これから進んでいく場所にも、違う種類の食虫植物があるので、観察したい。



○大きな水たまり

目の前には大きな水たまりが見えるが、これまで見てきた植物が多く生えている。葉が幅広で厚い植物で、先ほど、水が好きな植物かもしれないと皆で確認したが、やはり、この水たまりにはこの植物ばかりが多く生えているので、水がある場所に生えている、水が好きな植物ということで間違いなさそう。



○一面のヨシ

最初に見た先が尖った枝分かれしている草が一面に生えているが、皆が知っているタンチョウは、このヨシを使って巣をつくり、水たまりにすんでいる生き物を食べて生きている。こうした湿原に生えている草がないと、タンチョウは生きていくことができないので、この草がずっと生

え続けている環境があること、湿原があることはタンチョウが生きていくためには、とても大切なこと。

○高層湿原

これまで見てきた植物とは違うものが生えている。地面をよく見ると、でこぼこしていて、小さな木のような植物が多く見られる。また、でこぼこの地面をよく見ると、コケが多く見られる。ここには、川から流れてくる水が届かないので、栄養がとても少なく、こうした栄養が少ない場所で生きていくことができる植物しか生えていない。先ほどお話した食虫植物もいるので、皆で見つけてみたい。



○ヨシ原のけもの道

草が倒れて道のようにになっている。人でも通ったのだろうか。実はシカなどの生き物が歩いたり、寝そべったりした跡が草についている。どんな生き物がどこを歩いていったのかなと想像しながら草が倒れた跡を観察してもらいたい。

○ヤチマナコの深さを確認

ここにも大きな水たまりがあるが、実はとても深い。ぼっこで確認してみると 3m 程ぼっこが水に入る。この水たまりは実は雨の水がたまっただけのものではなく、実は湿原全体が大きな水たまりの上に草が生えている。その草に穴が空いた場所が、こうした水たまり。湿原に生えている植物にとっては、水はとても大切で、水が多くあっても生きていける植物、水が好きな植物が多く生えていて、その中でも、水の量や食べ物である栄養の違いで生えている植物がいろいろと変わっている。



■温根内ビジターセンター到着・フィールド学習終了 (11 : 40)

釧路市立中央小学校 フィールド学習（2回目訪問） 実施内容

《概要》

[日程] 2019年9月25日（水）

[参加者] 5年生児童25名

[講師・案内] 環境省 矢部自然保護官

山本・安田（公益財団法人 北海道環境財団）

[フィールド学習の目的]

・湿原の風景、水環境、季節による違いなどに着目しながら、児童の関心を引き出す。

[実施プログラムの概要]

9:25 温根内ビジターセンター駐車場到着・オリエンテーション

9:45 温根内木道でのフィールド学習

11:40 フィールド学習終了

《実施内容（記録）》

■オリエンテーション（9:25）

○挨拶（環境省 矢部自然保護官）

今日は2回目の湿原ということで、皆さんが興味を持ったことを改めて観察したり、新しい発見をしてもらえたらと思う。わからないところはスタッフに聞いてもらいたい。



○スケジュールの確認（北海道環境財団 山本）

■2グループに分かれて、温根内木道でのフィールド学習（9:45）

※以降は1つのグループの活動を記録

（案内：北海道環境財団 山本）

○ビジターセンターに向かう道（小さな種の確認）

1回目で草の先に目立たないお花が咲いていたのを覚えているだろうか。草の先に付いているものの中に種があるか確認してみたい。（種らしきものを確認）



○ビジターセンターに向かう道

(キノコが生えた枯損木)

キノコが多くついている。途中で切られてしまっていて死んでしまった木だが、恐らく、風などによって途中で折れたものをノコギリで切ったのだろう。キノコが生え、よく見ると虫が食べた跡も見つけることができる。森の中で死んでしまった木も大切な役割がある。



○ビジターセンターに向かう道

(ドンダリの実が多く落ちている場所)

道の上を見るとドンダリがいっぱい落ちている。どこにドンダリの木があるか探してもらいたい。ドンダリはコロコロと転がるが、概ね、ドンダリが落ちている範囲の上にドンダリの木がある。



○木道を歩きながら、児童が関心を持ったものを見つけていく

1回目の訪問の時に「花」といっていたものの中に種が見つかるか、水がある場所に生えていたミツガシワ、ガマなどに種がついているか、それぞれの植物が生えている場所の地面に水は見られるか、水たまりで生き物は見られないか、木についている緑色のものは何なのか、水際に落ちている赤色の塊は何か、山際のぬかるみについた足跡は何の生き物のものか、木（ハンノキ）についた緑色の塊は種なのか、道端に生えているキノコ、ミズナラについたドンダリなど、1回目に見つけたものを再確認するとともに、夏には見られなかったもの、秋ならではのものなどを見つけながら、木道を散策した。





■ 温根内ビジターセンター到着・フィールド学習終了 (11 : 40)